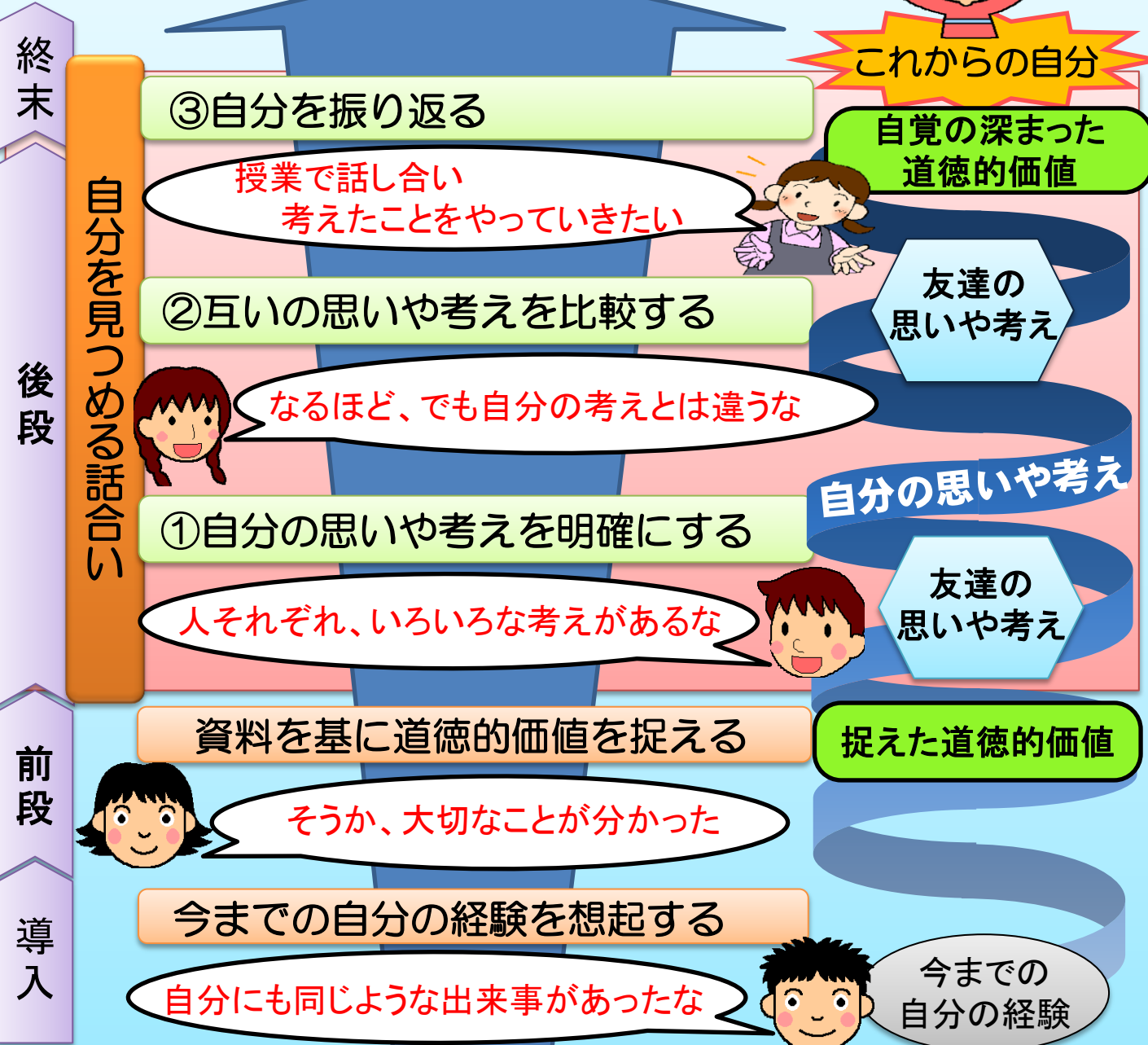


道徳的価値を自分のこととして考える授業構想の工夫 —自分を見つめる話し合い活動を通して—

長期研修員 川田 憲廣

授業構想図

自分を見つめ、これからの生き方についての考えが深まった児童



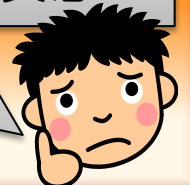
教師の課題



主人公の心情把握に偏った授業になり、児童が自分を見つめる時間を作れない。

日常の課題を自分のこととして考えられず、道徳的行為や習慣につながらない。

児童の実態



①自分の思いや考えを明確にする

教師の意図ある発問

発言を基にグループに分類

整理して板書し、可視化

互いの多様な思いや考えに気付く

②互いの思いや考えを比較する

互いの思いや考えを比較する発問

自分では気付かない様々な価値観を考える

③自分を振り返る

自分の変容した点や友達の考えのよさを考える発問

これからの自分の生き方を考える発問

成長を実感し、これからの自分の課題や目標を見付ける

【授業での板書】

分類した思いや考え

自分 うれしい
楽しい
よるこんだ

相手 よるこんでいた
うれしそうだった
えがおになった

お互い うれしくなった
楽しくなった
いい気持ちになった

親切にすると、だれが、どんな気持ちになるでしょうか？

相手 うれしいと思ってる
ありがとうと思ってる
だれかにやってあげたい

自分 いっしょにうれしい
やってあげてよかった
いい気持ち

うれしいとどうなるの
もつとうれしくなる
もつと仲よくなる
他の人にもしてあげたい

思いや考えの比較

自分を見つめる話合い



児童の感想

友達の考えを聞いて、これからは誰にでも、同じように親切にしたいと思った。

成果 今までの自分を振り返ることで、自己理解が図れ、これからの自分の生き方を考える意欲につなげることができた。

課題 自分を見つめる話合いでは、これからの課題や目標を見付けるため、自分の成長を実感できるようにする必要がある。

提言 今までの自分を振り返る時間を授業の最後に設け、児童が自らの変容を捉えることができる授業を目指しましょう。